



心をととのえる

校長 豊田 由香

先月は、「いじめ撲滅強化月間」でした。6月には、スクールロイヤー（弁護士）のお話を5、6年生と本校体育館で、スクールロイヤー講演会をさいたま市の全校長研修会で、またスクールミーティングと言って教育長や他の学校の校長先生方と意見を交わす会で、3回の会議や講演会でいじめの話聞く機会がありました。

その中で印象に残っているのが2点あります。1点目は、5、6年生のお話の中で「いじめをすることは絶対にいけない」ということとあわせて、「見て見ぬふりをする『傍観者』を減らし、周りや大人に知らせることが大切である。」ということ。2点目は、講演会の中で、「人権は誰にでもある」「じゃれあいやぶざけているのをいじめと中々捉えにくいけれども、子どもが『いやだ』と感じていたら、もうそれはいじめである。」ということでした。先月でいじめ撲滅強化月間は終わりましたが、大宮別所小では引き続き「いじめはゆるさない。」ことを全教職員で確認し、学校教育目標「夢と希望をもち、豊かな心でたくましく生きる子の育成」を目指してまいります。これからもどうぞ御協力をお願いいたします。

さて、7月の全校朝会で詩を紹介しました。

「はきものをそろえる」

はきものをそろえると 心もそろう 心がそろうと はきものもそろう
ぬぐどきにそろえておくと はくどきに心がみだれない
だれかがみだしておいたら
だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと 世界中の人の心もそろうでしょう



この詩は、長野県にある円福寺の藤本幸邦和尚様がつくられたものです。禅宗の教えである「脚下照顧（きゃっかしょうこ）」を子どもにも分かるように、そして、それがいつも行動として身に付くようにと考えたのがこの詩だそうです。「脚下照顧」とは、他に向かって理屈を言う前に「自分の足元を見よ」「自分の行いや心を振り返れ」という意味だそうです。

朝登校し、下駄箱に靴を入れるときに、心を整え、靴のかかとを揃えて校内に入る。下校のときに、心を整え、上履きのかかとを揃えて昇降口を出る。当たり前のことですが、このことがしっかり身につくと、一日のスタートをしっかりとることができる、一日のまとめをしっかりとできる、ことにつながります。下駄箱を見れば、その子の心の内が見え、全校の下駄箱の様子を見れば、その学校の様子が分かるとも言われます。大宮別所小学校の下駄箱は、しっかりと靴が揃っていました。素晴らしいですね。そしてこの行動は「宮原中学校区行動目標」でもあります。この行動が、中学校・・・大人になっても身に付いてほしいという願いでもあります。是非、各ご家庭でも、玄関の靴を揃えることを意識していただけたらと思います。

1学期の授業日も今日を入れて残すところ13日となりました。夏休みに向けて、1学期の学習のまとめをしっかりとしていきます。少し早いですが、1学期の間、保護者の皆様、地域の皆様、大変お世話になり、ありがとうございました。

2学期は8月26日に始まります。また、お世話になります。どうぞ、よろしく願ひいたします。

